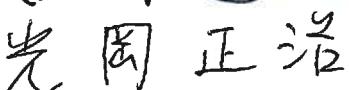
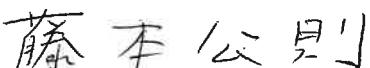


審査結果の要旨

報告番号	乙 第 3060 号		氏名	藤木 玲
審査担当者	主査			(印)
	副主査			(印)
	副主査			(印)
主論文題目 :				
Daytime and Nighttime Visual Analog Scales May Be Useful in Assessing Asthma Control Levels Before and After Treatment				
(喘息コントロール評価における日中及び夜間の visual analogue scale(VAS)の有用性)				

審査結果の要旨（意見）

本論文は、単一の一般診療所を受診した喘息患者のうち、未治療患者（55例）を対象に、喘息のコントロール評価において、日中と夜間のVASの有用性をACTとの併用において薬物治療前後（前、治療後4週、8週）で比較検討した臨床研究である。日常診療で簡単に利用できるVASが喘息コントロール評価においてACTと同様に有用であることを示した。さらに夜間VASはACTスコアや臨床的意義のある最小変化量（minimal clinically important difference: MCID）において日中VASよりも早くコントロール状態の改善を検出できる可能性を報告している。

本研究は、地域のプライマリーケアを担う一般診療所において、とくに呼吸器系の慢性疾患の代表である気管支喘息のコントロール改善の方策として、これまでのVASの利用に工夫を加えて調査するなど、極めて実臨床に即したものであり、今後の喘息患者さんの適切なコントロールに活用できる有用な知見を提供しており、今後のさらなる臨床研究につながる大変意義深い研究である。学位論文として十分に価値があると考えます。

論文要旨

喘息症状の正確な評価は喘息管理を改善するうえで重要である。VASは咳の評価によく用いられており、喘息コントロール状態を全般的に評価できる利点があるが、VASを用いた研究は少ない。そこで我々は喘息コントロール状態及び治療効果の評価における日中及び夜間のVASの有用性を後方視的に検討した。

対象は症状を有する未治療喘息患者 55 例とした。症状コントロール状態の標準的な評価法として治療前、治療後の Asthma Control Test (ACT)を用い、ACT と VAS との相関、VAS の minimal clinically important difference (MCID)を検討した。

日中及び夜間の VAS はいずれも治療前、治療後の ACT と有意な相関を認めた。日中及び夜間の VAS の推定 MCID は 4 週で-3.2 及び-3.3cm、8 週で-4.6 及び-4.1cm であった。治療後 8 週で ACT20 点以上でも日中及び夜間の VAS が MCID に達しなかった患者は 34.0 及び 24.0% であった。

日中及び夜間の VAS は ACT 等の評価法と組み合わせることで喘息コントロール状態の評価に有用と考えられた。